

第4次函館市一般廃棄物処理基本計画に対する答申（案）一覧

資料2

令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会会議録抜粋			答申（案）
計画関係箇所	発言委員名	発言要旨	
(P. 20) 第1章 ごみ処理の現状 第4節 ごみの組成	一戸委員	(第2回会議録P. 6) 食品ロスの排出量について、全国との比較や傾向の分析を行い、食品ロスの排出量を減らしていこうという目標につなげるため、今の数値の現状だけではなく、傾向を踏まえた上での今後のスキームも意識していく必要がある。	食品ロス実態調査について、今後も継続した調査の実施により、食品ロスの割合や推計排出量の把握に努め、他都市などとの比較や傾向分析を行い、新たな施策につなげるよう努めること。
(P. 28, 30) 第2章 第3次計画における数値目標の検証 1－(3), 2－(2) 他都市との比較	平沢会長 一戸委員 宮下委員	(第2回会議録P. 4-6) 原単位や家庭系原単位、リサイクル率について、他都市との比較が市民にとって分かりやすいため、他都市と比較した中での函館市特有の部分や要因などをもう少し詳しく書いた方が理解しやすい。	原単位・家庭系原単位（1人1日当たりのごみ排出量）およびリサイクル率の「他都市との比較」については、市民にとって本市の状況を把握するために有効と考えられるため、他都市と比較した際の本市の特徴や要因分析などを分かりやすい表現に修正を検討すること。
(P. 32) 第3章 ごみ処理の課題と今後の方向性 1 ごみの発生抑制と再使用の促進	宮下委員	(第2回会議録P. 7) 食品ロスがごみの割合のうち多くを占めているというところから、率先して着手していくことは望ましい。	ごみの発生抑制に取り組むにあたり、排出量のうち多くを占める生ごみ、とりわけ食品ロスから着手することは望ましいため、今後も食品ロス削減に係る施策を積極的に進めること。
(P. 32) 第3章 ごみ処理の課題と今後の方向性 1 ごみの発生抑制と再使用の促進	宮下委員	(第2回会議録P. 7-8) 古着の回収については、集団資源回収やリサイクルショップなどのほか、市の拠点回収も行われているが、素材や破損などにより引き取ってもらえないことも多く、量も多い場合があるため、従前から何年来の問題だと思われるが、引き続きより良い方策を検討していただきたい。	古着の回収について、市の拠点回収のほか、集団資源回収や民間事業者独自の取組など様々な方法により行われているが、今後も多く発生することが見込まれるため、素材や種類などによる対象外品も含め、資源化可能な処理方法について、今後も情報収集や処理ルートの確保に努めること。

令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会会議録抜粋			答申（案）
計画関係箇所	発言委員名	発言要旨	
(P. 32) 第3章 ごみ処理の課題と今後の方向性 2 ごみの再資源化の推進	亀井委員	(第2回会議録P. 8) 民間事業者による資源物回収の取組がリサイクル率の数字上反映されず、市民や事業者が頑張っても効果が確認できないのは残念であるため、市民の取組が目に見える形になるよう工夫できるとよい。	民間事業者独自の資源物の回収量について、現状、市が把握することができず、リサイクル率に反映されない状況となっていることから、民間事業者との連携体制を構築することにより、目に見える取組効果とし、市民の更なる意識向上につながるよう検討すること。
(P. 34, 36) 第4章 基本方針と数値目標 第2節 ごみの排出量推計	平沢会長	(第2回会議録P. 11) 数値目標1として家庭系原単位の目標があり、計算式の中には推計人口があるが、用いられている推計人口の減少傾向が顕著であり、ごみが減ることは望ましい一方、将来的に人口が減ることはあまり望ましくないことから、例えば、市役所内の人口減少対策を担っている部署の人口増加施策などを反映できる余地はないか。	家庭系ごみの推計にあたっては、推計人口が大きく影響するため、人口減少対策の各種施策などの効果により、推計人口が実態と乖離した場合は、進捗管理の中で適宜見直しを行うこと。
(P. 39) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針1 ごみの発生抑制（リデュース）と再使用（リユース）の促進 ◆ 食品ロス削減の推進（生ごみの発生抑制） ○ 食品に関する正しい情報の普及啓発	柿崎委員	(第2回会議録P. 12) 「食品ロス削減の推進」に係る個別施策のうち、「食品に関する正しい情報の普及啓発」において、「消費期限と賞味期限の違いなどの食品に関する正しい情報の普及啓発」とあるが、この他にも冷凍などの方法もあると思われる。	食品ロス削減の推進（生ごみの発生抑制）において、食品に関する正しい情報の普及啓発の中で、冷凍保存などの保存方法の工夫など、食品ロスを発生させないための方策についても追加を検討すること。

令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会会議録抜粋			答申(案)
計画関係箇所	発言委員名	発言要旨	
(P. 39) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針1 ごみの発生抑制(リデュース)と再使用(リユース)の促進 ◆ 食品ロス削減の推進(生ごみの発生抑制) ○ 食品ロスゼロ推進店事業の実施	宮下委員	(第2回会議録P. 15, 17) 「食品ロス削減の推進」に係る個別施策のうち、「食品ロスゼロ推進店事業の実施」について、「安全に配慮した上で食べ残してしまった料理の持ち帰りに取り組む飲食店」とあるが、食材を使い切る工夫、食べ残しを出さない工夫、食べられないものなどの確認、冷蔵庫をあまり開けない工夫、宴会や冠婚葬祭での食事等における工夫など、色々な工夫の仕方があると思われるため、持ち帰りだけの推奨にこだわらず、ハーフサイズや小盛り、SMLサイズなどのサイズ調整ができる提供方法など、飲食店側での柔軟かつ様々な取組も対象としてみてはどうか。	食品ロス削減の推進(生ごみの発生抑制)において、食品ロスゼロ推進店事業については、食べ残しの持ち帰りの取組以外にも、小盛りやハーフサイズなどのメニュー設定など、食品ロスを削減するための各種取組を対象要件に追加することを検討すること。
(P. 38) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針1 ごみの発生抑制(リデュース)と再使用(リユース)の促進 ◆ 食品ロス削減の推進(生ごみの発生抑制)	柿崎委員 平沢会長	(第2回会議録P. 12-14) 普段の生活において、買い物をした時のレシートを活用した食材の在庫管理や小分け冷凍による保存などを行っており、在庫の把握により冷蔵庫の開閉時間も短縮できるほか、電気・ガス・水道・灯油・ガソリンなどのそれぞれの係数からCO ₂ の排出量を自身で計算できる環境簿家計簿を活用している。 こういった実践例について、資料として使っていくようなことになればいいと思う。	食品ロス削減の推進にあたっては、レシートを活用した在庫管理などによる食品を無駄にしない取組などの実践例と合わせて、冷蔵庫の開閉時間の短縮などによるCO ₂ 発生量の削減に資する取組について広く紹介し、市民一人ひとりの環境に配慮した行動を促すよう努めること。
(P. 40) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針1 ごみの発生抑制(リデュース)と再使用(リユース)の促進 ◆ リユース事業者による再使用の促進	宮下委員	(第2回会議録P. 15-17) 「リユース事業者による再使用の促進」について、文章表現が分かりづらいため、フリマ事業者と連携をしていくなど、もう少し具体的に分かりやすく表現したほうがいい。	リユース事業者による再使用の促進について、リユース事業者との連携など、取組の方向性を具体的かつ分かりやすい表現に修正を検討すること。

令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会会議録抜粋			答申(案)
計画関係箇所	発言委員名	発言要旨	
(P. 40) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針2 ごみの再資源化(リサイクル)の推進 ◆ プラスチック使用製品廃棄物の分別収集および再商品化実施の検討	宮下委員	(第2回会議録P. 15-16) 「プラスチック使用製品廃棄物の分別収集および再商品化実施の検討」について、プラスチック容器包装は大変進んでいいが、プラスチックは地球規模の問題がある中で、その他のプラスチックの関係も処理していく必要が絶対的にあると考えるため、市の財政負担や収集体制の構築などの課題があるが、ぜひ積極的に頑張っていたきたい。	プラスチックごみ問題は地球規模の課題となっていることから、既に取り組んでいるプラスチック容器包装以外のプラスチック使用製品廃棄物の分別収集および再商品化について、収集運搬体制などの課題が想定されるが、実施を目指し、積極的な姿勢で検討を進めること。
(P. 41) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針3 環境教育の充実、環境啓発・環境美化の推進 ◆ 環境教育の充実 ○ 環境教育副読本の配信	一戸委員 平沢会長	(第2回会議録P. 14-15) 「環境教育の充実」に係る個別施策のうち、「環境教育副読本の配信」について、これまでも取り組んできたと思うが、現場経験から、環境教育副読本が現場でどのように活用されているかがなかなか押さえられていないと感じるため、内容の精査や実際の声を聞き、改善、改訂していくとともに、ぜひ環境教育副読本を活用し、学校教育の場で取り組んでほしい。	生ごみ減量化や食品ロス削減の推進にあたり、食育を含めた環境教育に力を入れるべきであり、環境教育副読本の内容については、実際の活用方法を踏まえ、随時改善を図ることを検討すること。
(P. 41, 38) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針3 環境教育の充実、環境啓発・環境美化の推進 ◆ 環境教育の充実 ○ 環境教育副読本の配信 基本方針1 ごみの発生抑制(リデュース)と再使用(リユース)の促進 ◆ 食品ロス削減の推進(生ごみの発生抑制) ○ 教育や学習における周知啓発	一戸委員 平沢会長	(第2回会議録P. 13-14) 「環境教育副読本の配信」において、総合学習という科目は厳密にはなく、「総合的な学習の時間」という教科のため、教科名で書く場合、表記が変わってくると思われる。 「食品ロス削減の推進」の中に「教育や学習における周知啓発」という項目があるが、これは「食品ロス削減の推進」の枠の中にあり、基本方針3でも子ども関連の施策で「環境教育副読本の配信」や「環境活動等の実施」などがあることから、被っている部分もあるため、記載する位置を工夫していただければと考える。	環境教育副読本の配信において、小学生の社会科や「総合学習」という記載があるが、教科名としては「総合的な学習の時間」が正式名称であるため、修正を検討すること。 また、この取組は本計画中の複数の施策に関わるものであるため、記載方法の工夫を検討すること。

令和6年度第2回函館市廃棄物減量等推進審議会会議録抜粋			答申（案）
計画関係箇所	発言委員名	発言要旨	
(P. 43) 第5章 基本方針に基づく施策の展開 第1節 基本方針に基づく個別の施策 基本方針4 適正なごみ処理体制の確保 ◆ 適正分別排出指導の推進	宮下委員	(第2回会議録P. 17) 「適正分別排出指導の推進」について、ごみ収集日カレンダー、ホームページ、ごみ分別アプリさんあ〜るなどがあるが、前例として、携帯電話ではホームページがなかなか見づらいなどの理由により、町会でホームページを作って掲載しても見る人がいないという状況があったことから、ホームページに情報を載せるにしても、もっと目につきやすいものに載せたり、QRコードを活用したりなど、ごみ分別アプリさんあ〜るの利用促進とともに、更なる周知方法を検討していただければと思う。	適正分別排出指導の推進において、ホームページの活用などが挙げられているが、多くの市民が携帯電話やスマートフォンを使用していることが想定されるため、各種広報媒体にQRコードを表示することにより、ホームページに容易にアクセスできるようにするほか、ごみ分別アプリの更なる利用者拡大の取組など、より良い周知方法の検討に努めること。